

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 2 columns: Field Name, Value. Fields include: 事業所番号 (0194700282), 法人名 (社会福祉法人 あおい福祉会), 事業所名 (グループホームしらかばおとふけ あい), 所在地 (河東郡音更町新通り7丁目3番地19), 自己評価作成日 (平成27年9月30日), 評価結果市町村受理日 (平成27年11月9日)

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: Field Name, Value. Fields include: 基本情報リンク先URL (http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigvogyoCd=0194700282-00&PrefCd=01&VersionCd=022)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: Field Name, Value. Fields include: 評価機関名 (タンジェント株式会社), 所在地 (北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内), 訪問調査日 (平成27年11月4日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人・施設理念を基に、職員一同統一した利用者の支援を行っており、地域の行事や施設の行事の関わりは継続して行っております。高等学校からのインターンシップや近隣の短期大学からの実習の受け入れもしており、学ぶ場だけではなくコミュニケーションも深めています。社内研修も年13回と充実しており職員の知識・技術向上に取り組んでおります。特に今年度は全体研修として事例検討発表会を行っており、系列の事業所の発表を聞き、自事業所の支援にも活かせる様努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫展(評価機関記入)】

<事業所の持つ機能を活かした地域貢献>
地域の高校の体験学習(インターンシップ)や短期大学の学生の実習受け入れなど事業所の持つ機能を活かして地域貢献に取り組んでいる。また、事業所主催の夏祭りを開催して、高校生等のボランティアの協力を得たり、地元の人々との交流の機会を作るなど認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて発信している。
<戸外に出かける支援>
一人ひとりのその日の希望に沿って、近隣への散歩や買い物等で戸外に出かけられるように支援している。また、スイートピアガーデンでの外食ツアーや菊まつり見物、花見や紅葉散策など普段は行けないような場所へも出かけられるよう支援している。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: Item No., Item Description, Achievement Status (0-4), Achievement Status (0-4). Rows 56-62 describe various service outcomes and their evaluation.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務室内に理念を掲示し、職員一同その理念をもとに利用者へのサービスに繋げている	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、職員会議やモニタリング等を通じて話し合い、その理念を共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームの焼肉交流会に参加して頂いたり、町内会の行事にも参加している。ボランティアの方にも焼肉交流会のお手伝いや余興も披露して貰っている	事業所主催の夏祭りや焼肉交流会を開催して、高校生等のボランティアの協力を得たり、地元の人々との交流の機会を作るなど認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて発信している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は地域の方々への講演など依頼され行っていたが、最近には行っていない。ただし、要望があれば受ける体制である。地域の方が参加される認知症の研修へも参加している		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	困難事例やサービスの現状について話し合いを行い、相談や貴重な意見を頂きながらサービスの向上に努めている	2ヶ月毎に運営推進会議を開催して火災避難訓練の実際や事業所の取り組み状況等の具体的内容について話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や介護相談員が来所の際に、ケアサービスの取り組みや実情を報告・相談し、協力関係を築いている	町担当者及び包括支援センターとは、日常的に情報交換を行いながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関の施錠はしておらず、施錠以外にも職員全員で身体拘束がもたらす弊害について深く考え、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置して、内部研修会で指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法について、社内研修等で学ぶ機会があり、虐待になりうる例など職員間でも情報や研修で学んだ内容を深く考え、日々のサービス努		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修の中で、地域包括支援センター職員から学べる機会があり、それらを事業所に持ち帰り職員会議等で、知識・情報を共有している。実際活用されている方はいないが、必要時に相談を受ける事ができるよう努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、理解・納得に努めている。契約時以外でも不安や疑問点があればその都度対応している		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱の設置とその都度ご家族から意見を聞き対応している。利用者の方からは利用アンケートと実施し、運営に反映させるよう取り組んでいる	独自の利用者・家族アンケートの実施や意見箱を設置して、意見や苦情等を言い表せる機会を設け、そこでの意見や要望等を運営に反映できるように取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議や申し送り等で、職員の意見や提案を聞き、運営に反映させている	毎月の職員会議や日々のミーティングで運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映できるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に準職員から正職員への昇格制度や、休暇制度の確保に努めている。育児休暇今現在取っている職員もいる		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内を職員へ呼び掛ける等、いつでも参加できる様取り組んでいる。資格取得に必要な研修等、職員一人一人が向上できる体制に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	十勝管内のグループホームの研修会に参加し交流を持つ等、同業者との交流を通じて自事業所にも質の良いサービスが提供できるよう取り組みをしている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	声掛けや訪室する回数を増やすなど、新たな環境での生活に対する不安や悩みについて話を伺い、関係づくりに努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申込や契約時、不安な事や困りごとへの話を伺い、家族の気持ちを汲み取りながら対応するよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他サービス事業者からの情報や、利用者本人や家族からの話の中で必要とされる支援を見極め・確認し、サービスの取り組みに努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者に知識を聞き教わりながら家事と一緒にいき、共に支え合って生活している		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	契約の段階で、家族の協力の重要性を話し、それぞれの立場で利用者を支えるという関係を築いている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人・友人の方々がいつでも気兼ねなく来所できるよう努めている。また、今までの習慣がホームへ入居しても継続できるよう出来る範囲で行っている	近隣への散歩や買い物、焼肉交流会開催で馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個々の性格を把握し、一緒にレクリエーションや共同作業を通じて利用者同士の関わりや支えながら生活ができるよう支援に努めている		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族から相談等があれば受け入れる体制はとっている。また、契約終了後も関わらず、家族よりホームに洋服やタオル類を寄付して頂く事もある		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者・家族に確認しながら、個人の意思を尊重し 職員会議やヶ会議にて、本人の意向に沿った支援方法を検討している	アセスメントを通じて、家族・本人の希望や意向の把握に努め、職員間で情報を共有して本人本位に検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	他介護サービス事業所や家族・本人より情報を収集し、記録等も使用し職員間で個々の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の会話から、利用者個々の生活のあり方や心身の状態を把握し、会議や申し送り等で職員で状況の把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族にグループホームの生活についてのご意向やケアの在り方について話し合い、それを基に職員間でも検討し介護計画を作成している	本人・家族の意向や要望、医師・看護師からの指導や助言、カンファレンスやモニタリングを通じて、職員からの意見やアイデアを反映し、現状に即した具体的な介護計画を作成している。また、状態変化時には、都度見直しを実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中での様子・気づきや利用者本人の言葉、またケアの実践の結果を記入し、会議や申し送りで情報を共有しながら介護計画を見直ししている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族からの相談には随時対応している。また、必要に応じ介護老人福祉施設を紹介している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事の際に町内のボランティアの皆さんにお手伝いを依頼し援助をして貰ったり、芸能披露を行って貰い楽しませている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族の希望を大切にし、受診の際は職員より医師宛てに状況報告を行い、適切な医療が受けられるよう支援している	受診は、本人・家族の納得したかかりつけ医となっている。また、医師との連携や日常の健康管理で適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態や気づき等、職場内の看護職員へ常に報告している。また、相談や指示を仰ぎ対応している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と入院時や退院時に密に連絡を取り連携を図っている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居契約時や退院時・状態変化時に、家族へ緊急時の対応や終末期のあり方について話しを伺っている。またホームで可能な対応についてケアプラン上に載せながら説明と方針を話し合っている	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族と話し合い、事業所ができることを十分に説明しながら方針を職員間で共有し、ターミナルケアを実践している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習の受講やホームで一般救命講習を行う等、急変や事故発生時に備えて定期的に訓練を身に付けている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回防災訓練を実施しており、今年は地震を想定した訓練を実施している。地域の方々にも避難訓練に参加し、避難してきた利用者を見守る協力をしている	緊急時に全ての職員が速やかに対応できるように消防署の協力を得ながら地域の人々も参加して、火災避難訓練を年2回実施している。また、すべての職員が避難誘導や火災通報装置等を取り扱えるよう訓練を実施している。	

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修に参加し、尊厳やプライバシーについて学んでいる。また、会議等で声掛けや対応の仕方について話し合いを行い、職員同士で注意できる環境作りに努めている	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応がないように内部研修会で職員間に周知している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の会話の中で思いや希望を読み取り、様々な場面で自己決定に繋がる働きかけをしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	利用者個々の生活様式の把握・情報を職員間で共有し、希望に沿った支援に努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事でお化粧はしているが、毎日の支援としては行っていない現状にある。洗面後や入浴後の化粧水・乳液のお手入れは毎日支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な範囲での調理の準備やおやつ作りと一緒にやっている	一人ひとりの好みや力を活かしながら、調理や食事の準備、おやつ作り等を職員と一緒にしている。また、外食ツアーを実施して楽しみごとの支援もしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に応じ、食べる量を検討し調整している。水分は個々の状態に合わせ、嗜好や形態の工夫をし水分確保の支援に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、介助又は見守りにて、義歯洗浄や口腔清拭・ブラッシングを行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄用具や方法が適正か検討し、排泄の自立に向けた支援に努めている	一人ひとりの力や排泄パターンを把握して、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の食事の中で、栄養補給食品(カルシウム・食物繊維)を取り入れている。また、水分の声掛けや運動の働き掛けも行っている。個々の排便の間隔を把握し対応している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	あらかじめ入浴日を決めさせてもらっているが、体調不良時や希望より、別の日に入浴できる様支援している	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように支援している。また、リフトを導入して職員の負担軽減を図っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	足浴や飲み物を提供し、安眠に繋げる支援をしている。居室にて休息される方、リビングにて休息される方等、個々の生活習慣を大切にしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員一人ひとりが薬の用法や用量について調べ、薬の変更時は申し送りや記録に残し、状態の観察・注意に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々に合った家事やレクリエーションの提供や、個別での外出を行う等役割や楽しみに繋がる支援を行っている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に沿って、買い物や散歩へ出掛けている。利用者の希望を家族へ伝え、外出されている	一人ひとりのその日の希望に沿って、近隣への散歩や買い物等で戸外に出かけられるように支援している。また、スイートピアガーデンでの外食ツアーや菊まつり見物、花見や紅葉散策など普段は行けないような場所へも出かけられるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはお小遣いはホームで預かっており、出掛けたり・買い物の際はお小遣いを使用している。利用者本人が強くお金を持つ事を希望される場合は、リスクを説明した上で少額を所持している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある方は電話を掛ける支援をしている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間での刺激(光や温度等)には配慮している。また、季節感のある飾り付けや行事の写真を掲示する事で、利用者同士やご家族と会話する時間となっている	利用者にとって、気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。また、共用空間は清潔感が漂い広く、季節ごとの手作りの作品や行事参加の写真が飾られ、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各々居室で過ごされたり、リビングで職員と折り紙をしたりテレビを観る等思い思いに過ごされている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔から使い慣れている家具や趣味として使用している物等持ち込まれ、ご本人が落ち着く空間となっている	居室には、安全に配慮しながら使い慣れた家具などが持ち込まれたり、家族等の写真が飾られるなど、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所や使用中の札の掲示や手摺りを設置している。必要な方には鈴を手元に設置し、トイレ時等鈴を鳴らして職員を呼ぶ工夫をしている		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194700282		
法人名	社会福祉法人 あおい福祉会		
事業所名	グループホームしらかばおとふけ ゆめ		
所在地	河東郡音更町新通り7丁目3番地19		
自己評価作成日	平成27年9月30日	評価結果市町村受理日	平成27年11月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=0194700282-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成27年11月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人・施設理念を基に、職員一同統一した利用者の支援を行っており、地域の行事や施設の行事の関わりは継続して行っております。高等学校からのインターンシップや近隣の短期大学からの実習の受け入れもしており、学ぶ場だけではなくコミュニケーションも深めています。社内研修も年13回と充実しており職員の知識・技術向上に取り組んでおります。特に今年度は全体研修として事例検討発表会を行っており、系列の事業所の発表を聞き、自事業所の支援にも活かせる様努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務室内に理念を掲示し、職員一同その理念をもとに利用者へのサービスに繋げている		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームの焼肉交流会に参加して頂いたり、町内会の行事にも参加している。ボランティアの方にも焼肉交流会のお手伝いや余興も披露して貰っている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は地域の方々への講演など依頼され行っていたが、最近には行っていない。ただし、要望があれば受ける体制である。地域の方が参加される認知症の研修へも参加している		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	困難事例やサービスの現状について話し合いを行い、相談や貴重な意見を頂きながらサービスの向上に努めている		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や介護相談員が来所の際に、ケアサービスの取り組みや実情を報告・相談し協力関係を築いている		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関の施錠はしておらず、施錠以外にも職員全員で身体拘束がもたらす弊害について深く考え、身体拘束をしないケアに取り組んでいる		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法について、社内研修等で学ぶ機会があり、虐待になりうる例など職員間でも情報や研修で学んだ内容を深く考え、日々のサービスに努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修の中で地域包括支援センター職員から学べる機会があり、それらを事業所に持ち帰り、職員会議等で知識・情報を共有している。実際活用されている方はいないが、必要時に相談を受ける事ができるよう努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、理解・納得に努めている。契約時以外でも不安や疑問点があればその都度対応している		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱の設置とその都度ご家族かた意見を聞き対応している。利用者の方からはアンケートを実施し、運営に反映させるよう取り組んでいる		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議や申し送り等で、職員の意見や提案を聞き運営に反映させている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に準職員から正社員への昇格制度や、休暇制度の確保に努めている。育児休暇も今現在取っている職員もいる		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内を職員へ呼びかける等、いつでも参加できる様取り組んでいる。資格取得に必要な研修等、職員一人一人が向上できる体制に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	十勝管内のグループホームの研修会に参加し交流を持つ等、同業者との交流を通じて、自事業所にも質の良いサービスが提供できるよう取組をしている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	声掛けや訪室する回数を増やすなど、新たな環境でも生活に対する不安や悩みについて話を伺い、関係づくりに努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申込みや契約時、不安な事や困りごとへの話を伺い、家族の気持ちを汲み取りながら対応するよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他サービスの事業者からの情報や、利用者本人や家族のからの話の中で必要とされる支援を見極め、確認しサービスの取り組みに努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の知識を聞き、教わりながら家事と一緒にいき、共に支え合って生活している		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	契約の段階で、家族の協力の重要性を話し、それぞれの立場で利用者を支えるという関係を築いている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人・友人の方々がいつでも気兼ねなく来所できるよう努めている。また、今までの習慣がホームへ入居しても継続できるよう、出来る範囲で行っている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個々の性格を把握し、一緒にレクリエーションや共同作業を通じて利用者同士の関わりや、支えながら生活ができるよう支援に努めている		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族から相談等があれば受け入れる体制はとっている。また、契約終了後も関わらず、家族よりホームに洋服やタオル類を寄付して頂く事もある		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者・家族に確認しながら、個人の意思を尊重し 職員会議やケア会議にて、本人の意向に沿った支援方法を検討している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	他介護サービス事業所や家族・本人より情報を収集し、記録等も使用し職員間で個々の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の会話から、利用者個々の生活のあり方や心身の状態を把握し、会議や申し送り等で職員で状況の把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族にグループホームの生活についてのご意向やケアの在り方について話し合い、それを基に職員間でも検討し介護計画を作成している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中での様子・気づきや利用者本人の言葉、またケアの実践の結果を記入し、会議や申し送りで情報を共有しながら介護計画を見直ししている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族からの相談には随時対応している。また、必要に応じ介護老人福祉施設を紹介している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事の際に町内のボランティアの皆さんにお手伝いを依頼し援助をして貰ったり、芸能披露を行って貰い楽しませている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族の希望を大切にし、受診の際は職員より医師宛てに状況報告を行い、適切な医療が受けられるよう支援している		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態や気づき等、職場内の看護職員へ常に報告している。また、相談や指示を仰ぎ対応している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と入院時や退院時に密に連絡を取り連携を図っている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居契約時や退院時・状態変化時に、家族へ緊急時の対応や終末期のあり方について話しを伺っている。またホームで可能な対応についてケアプラン上に載せながら説明と方針を話し合っている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習の受講やホームで一般救命講習を行う等、急変や事故発生時に備えて定期的に訓練を身に付けている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回防災訓練を実施しており、今年は地震を想定した訓練を実施している。地域の方々にも避難訓練に参加し、避難してきた利用者を見守る協力をしている		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修に参加し、尊厳やプライバシーについて学んでいる。また、会議等で声掛けや対応の仕方について話し合いを行い、職員同士で注意できる環境作りに努めている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の会話の中で思いや希望を読み取り、様々な場面で自己決定に繋がる働きかけをしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	利用者個々の生活様式の把握・情報を職員間で共有し、希望に沿った支援に努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の気分や希望で髪を結んだり、季節行事等にはお化粧をして参加する等支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付け、味見等、一緒に行いながら出来る事を支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に応じ、食べる量を検討し調整している。水分は個々の状態に合わせ、嗜好や形態の工夫をし水分確保の支援に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、介助又は声掛け・見守りにて、義歯洗浄やブラッシングを行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の排泄方法を確認、または検討しながら自立に向けた支援に努めている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の食事の中で、栄養補給食品(カルシウム・食物繊維)を取り入れている。また、水分の声掛けや運動の働き掛けも行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	入浴日、時間等もなるべく希望に沿えるように努めている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	照明や室温の調整、お茶の提供等、一人一人の生活習慣を大切に支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員一人一人が薬の用法や用量について調べ、薬の変更時は申し送りや記録に残し、状態の観察・注意に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力を把握、または出来る事を引き出せるようなレクリエーションやお手伝い、外出の支援を行う事で気分転換や楽しみに繋がっている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿いながら散歩や買い物へ出掛けている。家族の協力もあり、外出や外泊もされている		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはお小遣いはホームで預かっており、出掛けたり・買い物の際はお小遣いを使用している。利用者本人が強くお金を持つ事を希望される場合は、リスクを説明した上で少額を所持している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある方は電話を掛ける支援をしている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間での刺激(光や温度等)には配慮している。また、季節感のある飾り付けや行事の写真を掲示する事で、利用者同士やご家族と会話する時間となっている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで職員と一緒にテレビを観たり、利用者同士でお話をされたり、自室で休まれたりと思いいいに過ごされている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔から使い慣れている家具や趣味として使用している物等持ち込まれ、ご本人が落ち着く空間となっている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所の掲示や手摺りを設置している。		

目標達成計画

事業所名グループホームしらかばおとふけ

作成日: 平成 27 年 11月 5日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に要する期間
1	18	疾患をかかえている利用者の外出の機会を本人の希望を大切にするのか、安全を優先するのか職員間で共有する必要がある。	職員間の意識の共有。	初任者研修、職員研修、ミーティングを通じて職員間で共有していく。	1年
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加してください。